

混声合唱団 福井コールアカデミー 第33回 定期演奏会

「そんなにも うたいたくて わかちあう」

福井コールアカデミー(愛唱:コルアカ)は、2021年6月に予定していた定演を延期し、今年3月に再設定するも再び延期となっていました。今年3月に再設定するも再び延期となりましたが諦めず、5月15日(日)福井県民ホールでようやく開催に漕ぎつけました。

開催までのご苦労を団長の赤尾昌人さんにお聞きました。

◆**マスク対応** マスクをした歌唱は子音が聞こえず、歌詞が分かり難いうえ、意外に低声もマスクされるようです。

子音を立てるなど、歌詞がよく聞こえる歌唱を意識して練習してきましたが、今回は**マスクなし**でOKとなりました。これは、ホール側の理解に拠るところが大きいです。県の無料抗原検査を受け、客席前列には観客を入れませんでした。合唱団は、ステージ上だけマスクを外し、距離を取り、基本動かない、合唱に徹した演奏となりました。これが、お客様に喜んで頂いた最大の要因だと思います。また、「顔」が見える、親しい人がわかり、何よりも表情が伝えられることもとても重要な要素だと思います。

◆**プロジェクション** もともと、プロジェクションをやっていましたが、今回は、とりわけ歌詞を伝える点で、重要な位置付けでした。苦労したのは、プロジェクション幕と反響板のどちらを取るかとなった点でしょうか。検討段階では、隠しマイクも準備し、目と耳の両立を考えましたが、**マスクなし**歌唱となったこともあり、マイクは使用せずに済みました。

◆**メンバー** 今回残念だったのは、2名ほど参加出来なくなってしまったことです。延期につぐ延期で、予定が合わなくなっていました。あるいは仕事の問題や体調など、それでも、励まし合いながら、「今やらなければ何時出来る」との意識が開催への原動力になったのではと思っています。また今回は、**男声合唱団ダンネリオン**さんから、2名の応援を頂きました。とても大きな力になりました。

◆**費用** 練習場所は、人数制限の関係から、一回り大きい部屋が必要になり、費用もかさみました。また、感染状況によって、休止することも多く、演奏会そのものも、3回ほど延期しており、チラシやプログラムの再発行などの費用も膨らんでしまいました。一方、感染状況から、積極的な集客活動は控えました。現在は、ホールの満席化も可能ですが、1/2程度にすると心理も働くことから、収入も減少。団員負担も大きくなりましたが、文化振興関係の補助金にも助けられました。

Program

★**第1ステージ** : 「そんなにも あいたくて」と題して4曲演奏しました。1曲目は、**松村勇**作曲の「**五幡の坂**」。この曲は、大伴家持の作品と、敦賀の歌人杉原永綏氏の作品(大伴家持の歌を本歌とする、本歌取りの形式となっている)の2首を題材としたものです。

2曲目は、元団員の**川村信治**作詞、**松村勇**作曲の「歌いあわせて そんなにも やわらかく」。共に初演です。最後に、工藤直子作詞、木下牧子作曲の混声合唱曲集「光と風をつれて」より2曲を歌いました。



第1ステージ「五幡の坂」

★**第2ステージ** : 「歌いたくて ディズニー」。1937年公開された「ハイホー」から年代順に5曲歌いました。最後は、2014年公開のアナ雪1です。少し苦手意識あり? 楽しいステージです。

★**第3ステージ** : 団員の歌いたい曲を持ち寄って構成。テーマは、「そばで わかちあえる」。「いのちの歌」「心の瞳」「ほらね」「The Rose」。そして、ミュージカル「レ・ミゼラブル」より「民衆の歌」の全5曲。今やコルアカの定番となった、プロジェクションです。歌より、絵の方が楽しみ? という方もおられる様? で、色々工夫して実現させました。

公式サイト <https://www.fukuichoracademy.com/>

● 福井コールアカデミーは、昭和62年(1987) 第1回定演を開催、組曲「愛ゆえに」大中恩曲/グノー : ミサ曲八長調 / 組曲「伊勢・志摩」小林秀雄曲などを演奏しています。

同団創設以来のディレクターで常任指揮者の**松村勇**さんは、作曲・編曲もこなし、常任指揮者**野村輝**さん、ピアニスト**加藤俊裕**さん、**品川真理子**さんと共に団を支えています。

団長の**赤尾昌人**さんは、東京都世田谷区出身、合唱歴30年弱、10年前に福井県勝山市に移りました。現在、混声合唱団福井コールアカデミー、男声合唱団ダンネリオンに所属。たまに松本市の男声合唱団クール・ビア、まつもと市民オペラ合唱団などにも参加しています。